

報告

第18回 北東3地域本部技術士交流研修会

石 村 正 一

1. はじめに

今年で第18回目を迎える北東3地域本部技術士交流研修会が、去る11月6日(金)札幌市内のホテルで開催されました。研修会には、統括本部から吉田会長をお招きし、東北本部からは吉川本部長ほか8名、北陸本部からは大谷本部長ほか8名、北海道本部の参加者を含め総勢92名の方々の参加をいただきました。

今年は、北海道の11月としては比較的温暖で良い気候のもとで開催できました。北海道本部事業委員会委員である鈴木技術士の司会進行により、特別講演、研修発表ははじめ予定していたプログラムを滞りなく終了しました。

以下に、その内容を報告します。

2. 交流研修会概要

この交流研修会は、地域の自然、文化、産業構造が類似する北東地域に在住する技術士が、地縁技術の掘り起こしとそれらの情報交換を行い、北東地域の発展に寄与することを目的として、平成10年度から北陸本部、東北本部、北海道本部の3地域本部が持ち回りで毎年開催しています。



写真1 研修会場の様子

今回は北海道本部の担当であり、研修会のテーマは、「地方創生 ―我々、技術士が果たすべき役割―」でした。

研修会は能登北海道本部長の開会挨拶に始まり、続いて東北本部の吉川本部長、北陸本部の大谷本部長から近況をかねた挨拶をしていただいた後、特別講演と5編の研修発表がありました。



写真2
北海道本部
能登本部長



写真3
東北本部
吉川本部長



写真4
北陸本部
大谷本部長

研修発表会の後、会場を移し約70名参加の交流会が行われ、吉田会長から挨拶をいただいた後開宴し、北海道の海の幸、山の幸の料理とともに地酒を存分に堪能して頂き、盛況な交流会となりました。

表 1 発表プログラム

【特別講演】 『北海道新幹線の開業に向けて』 北海道総合政策部交通政策局 新幹線推進室長 本間研一氏
【研修発表】 『都市と地方の交流による地方創生の可能性と技術士の役割』 ー北海道豪雪地帯での雪かきツアーの事例からー 一般社団法人北海道開発技術センター 中前千佳氏 『地方人口ビジョン及び地方版総合戦略策定と地域活性化』 ー新潟県内の自治体の取り組み事例の紹介ー エヌシーイー株式会社 小見直樹氏 『日本一小さな村の「子育て共助のまちづくり」の取り組み』 株式会社新日本コンサルタント 大門健一氏 『福原第一原子力発電所の事故による現状と課題そして将来の可能性について』 株式会社ふたば 遠藤秀文氏 『新たな地域活性化モデルによる交流人口拡大の試み』 一般社団法人東北お遍路プロジェクト 高橋雄志氏

3. 特別講演(本間 研一氏)

北海道新幹線の新青森・新函館北斗間は2016年3月26日に開業することが決まり、2030年度末には新函館北斗・札幌間が完成する予定である。

新函館北斗～東京間の所要時間は現行で5時間27分に対し、北海道新幹線開業後は4時間09分となり、1時間18分も短縮される。

北海道新幹線開業の取り組みとして、2月開催のさっぽろ雪まつりでの大雪像作成によるPRやロックバンドGLAYによるPRソングの作成、開業PR動画の作成、多言語パンフ等のインバウンド対策など北海道内でのPR活動を実施するとともに、北海道外でのPR活動として、東北・北関東地域への開



写真5
北海道総合政策部交通政策局
本間研一氏

業PRキャラバン隊の派遣、各種広告媒体を活用したPR活動等を実施中である。

新幹線の開業効果を新幹線駅がある北海道南部地域にとどめず、広く全道に波及させるため二次交通ネットワークの整備を進めている。

また、札幌～東京間の所要時間は現行で9時間10分に対し、札幌延伸後は5時間01分となり、4時間09分も短縮される。この北海道新幹線の札幌延伸の工期短縮に向けた、「トンネル掘削土の受け入れ地確保」「掘削残土の処理」「札幌市内の用地取得の円滑化」などの課題への対応について説明していただきました。

2016年3月26日の北海道新幹線開業は、北海道にとって地域活性化の大きなチャンスとなることが期待されていると紹介されました。

4. 研修発表

4.1 北海道本部(中前 千佳氏)

北海道豪雪地帯では、高齢化と過疎化が進み、雪処理の担い手が不足するなど、地域コミュニティの衰退が深刻化している。都市部の企業や学生等を北海道各地の豪雪地帯に除雪ボランティアとして派遣する雪かきツ



写真6
北海道・中前技術士

アーをきっかけに、地域や立場や世代を超えた交流が生まれ、そのことが新たな地域の活力の創出につながっている事例を紹介した。雪かきボランティアツアーから始まった都市と地方の交流は確実に地域の人たちの地域づくりへのモチベーションを高めることにつながっており、これを機に地域が元気になり、新しいビジネスの芽が生まれる可能性がある。技術士が地方創生に果たす役割とは「地域が自分の地域の魅力に気づき、新しい取り組みに挑戦すること」をサポートすることと紹介されました。

4.2 北陸本部(小見 直樹氏)

昨年末の「まち・ひと・しごと創生法」の制定に伴い、全国の自治体で一斉に人口減少対策に向けた新たな取り組みが始まろうとしている。本研修発表では、新潟県における人口減少の実態を踏まえながら、ケーススタ



写真 7
北陸・小見技術士

ディとして新潟県内にある中小自治体の地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の策定事例を通じて、具体的な人口減少対策に向けた取り組みを紹介した。地方創生の今後の課題として、地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の策定は、「どの自治体も同じような計画が作られているだけで価値がないのでは」との批判もあるが、実際は策定を通じて自治体職員や地域住民が自ら人口減少に伴う危機を認識する重要な機会となったと考える。今後、これを機会にさらに地域が創意工夫を発揮して、独自の強みを活かした取り組みを主体的かつ自律的に進めていくことで、新たな地域社会が創生されることを願っていると紹介されました。

4.3 北陸本部(大門 健一氏)

富山県船橋村では、近年ベッタタウンとして急激な人口増加で発展してきた。しかしながら村の推計では若者転出、高齢化による人口減少が予測され、子育て世代の流入を図ることが重要と考えた。このことを踏まえ、村、



写真 8
北陸・大門技術士

富山大学が事務局となって、宅地造成事業者、造園事業者、保育事業者、金融機関等を交えて産学官金連携で「子育て共助のまちづくり」に取り組んでいる。その取り組みにコンサルタントとして支援して

いることについて紹介されました。

4.4 東北本部(遠藤 秀文氏)

東日本大震災そして原発事故から 4 年半が経過した。原発周辺では未だに約 12 万人の住民が避難した状態である。原発事故は自然災害とは異なり、避難先が全国と広域に広がり、地域コミュニティの崩壊、帰還意識



写真 9
東北・遠藤技術士

の低下、地域そして文化の荒廃、市町村の存続など、様々な問題が顕在化している。現在、復旧・復興が進められているが、廃炉、除染、まちづくり、自然再生、基幹産業等、様々な課題が浮き彫りになっている。地域の抱える主な課題と本来持つ地域のポテンシャルを勘案し、被災地域の将来の可能性として技術士が果たす役割について紹介されました。世界で事例の無い地域再生を住民が戻りたいと思える、そして新たな住民が安心して生活できる魅力的な地域の創出を様々な分野の英知の集結と連携で長期間粘り強く情熱を持ってチャレンジし新たな技術の創出と日本の底力を世界へ発信することと紹介されました。

4.5 東北本部(高橋 雄志氏)

東日本大震災の被災により、岩手県、宮城県、福島県の人口は、被災前と比較すると約 2% (約 11 万人) 減少しており、特に仙台都市圏の人口が増加する半面、岩手県、宮城県の沿岸 6 市町村で減少率が 10% を超え、産業生産など地域の将来に深刻な影を落としている。被災地では、復興に向けて精力的な取り組みが



写真 10
東北・高橋技術士

行われているが、誤解を恐れずに言えば地域間競争となっている。このため、「東北お遍路」という地域活性化モデルによる交流人口拡大の試みについて紹介されました。

5. 交流会

会場を移し約 70 名の参加をいただき、飯野実行副委員長の司会進行で、皆さんお楽しみの交流会が行われました。交流会では北海道本部の森副本部長の挨拶に始まり、来賓である吉田会長から挨拶を頂き、梶澤実行委員長の乾杯で開宴しました。北海道の海の幸、山の幸と地酒で北陸本部、東北本部、北海道本部の交流が深められました。最後に中山北陸



写真 11 交流会司会 飯野実行副委員長



写真 12 交流会挨拶 森北海道副本部長



写真 13 来賓挨拶 吉田日本技術士会会長



写真 14 梶澤実行委員長による開宴乾杯



写真 15 中山北陸名誉副本部長による閉会乾杯

名誉副本部長の乾杯で閉会しました。

6. おわりに

研修発表は、3 地域本部より様々な視点での「地域における技術の役割」が発表され、参加者自らの技術部門にとらわれることなく広い知識が習得されたものと考えます。3 地域本部合同の交流研修会は次回 19 回目となり、東北本部の主体で開催の予定です。本研修会のような地域本部をまたぐ技術士の情報交換、交流はさらなる会員相互の交流の活性化が図られることから、これからも継続した開催と多数の参加を期待します。

最後に交流研修会に参加いただいた皆様、発表者および準備に協力いただいた委員の皆様には、この紙面を借りて改めて御礼申し上げます。

石 村 正 一 (いしむら しょういち)

技術士(建設部門)

日本技術士会北海道本部
事業委員会 幹事長
株式会社ドーコン

